

ハート通信

2008年

No.16

編集・発行

名古屋徳洲会総合病院 心臓血管外科 術後の会
〒487-0013 春日井市高蔵寺町2丁目28番地の1
Tel:0568-51-8711
URL: <http://www.nagoya.tokushukai.or.jp>

◇CONTENTS

- ご挨拶……………1～2
- 心臓手術研修……………3
- 第8回術後の会の報告……………4～5
- 術後体験談……………6～7
- 質問コーナーQ & A……………8

ご挨拶……………

皆様、残暑をお過ごしのことと思われませんが、お変わりはありませんでしょうか。

名古屋徳洲会総合病院で手術をさせていただきはや10年が経ちました。今では4病院で12名の若い心臓外科医を有する心臓外科グループとなり、当院で育ち他の病院で活躍する心臓外科医は4名となりました。またこの春、岐阜県大垣市に大垣徳洲会病院が新設され、その病院の開設と同時に心臓血管外科の立ち上げにも参加させていただいております。大垣の心臓血管外科は田澤先生を中心に開始いたしました。私の役職も次第に変わり、それに伴い心臓手術以外でいろいろ悩むことも多くあります。しかし変わらないことは、大変な手術をチームで成し遂げた時の充実感そして手術でお元気になられた患者さまの笑顔を病院職員と共有することが最大の幸せと感じることであり、10年前の名古屋徳洲会での心臓血管外科の原点を忘れずに若い外科医と共にこれからも頑張っ



心臓血管外科
大橋 壯樹

昨年秋は皆様と一緒に昼神温泉で楽しいひと時を過ごすことができました。日々の診療の中で、手術後経過が思わしくなく、病院で苦しんでおられる患者さま、術後不幸にもお亡くなりになられた患者さま、ご家族さまへの気持ちが私たちの頭の大半を占めております。そのなかで、手術をして元気になられた方、一命を取り留めた方と一緒に過ごさせていただくことは心臓外科医にとって至上の喜びであり、励みにもなります。

(次ページへつづく)



先日、大垣日大高校野球部監督阪口慶三先生とお会いさせていただきました。大垣日大高校は大垣徳洲会病院の隣に位置し、いわば隣同士の仲になります。阪口慶三監督の教え子で3年連続甲子園に出場したH氏に、私の心臓手術に欠かせない手術器具のメンテナンスを行っていただきました。彼の紹介でこの面会が実現しました。阪口慶三監督の甲子園への想い、生徒(子供たち)への愛情が伝わってきました。野球を通じて人間教育を行っている。そして高校野球を通じて知り得た人間関係がこんなにも素晴らしいものなんだ、と熱く語ってくれました。心臓手術を通じて私も同じように多くの出会いがあり、素晴らしい人間関係ができました。

はるばる九州から私の手術を受けにお越し頂いた患者さまがみえました。心臓血管外科手術の中でも最も難易度の高い手術のひとつですが、当院での手術を了承していただき、手術をさせていただきました。術後創部の感染で長期入院となりましたが、お元気に退院されました。その後、九州で再発して危険な状態で入院したという連絡をもらい、私はすぐさま飛行機で九州の病院を訪れました。そこには、とってもお元気そうにしている患者さまがいました。当院で入院しているときは、なんとなくさびしそうで、不安そうに見えましたが、地元の病院ではご家族に囲まれ、目が生き生きとしていました。「はるばるお越し頂きありがとうございます。」とおっしゃっていただきましたが、私こそ「こんな遠いところから私の病院に手術を受けにお越しいただき、ありがとうございます。」と感謝の言葉が自然と出ました。多くの親戚の皆様にも会い、この手術にどれだけ多くの皆様が期待をして九州への帰りを待っていたかが分かりました。

10年前に手術をさせていただき、術後の会では奥様からいつも感謝の言葉をいただいていた患者さまが、先日癌で亡くられました。亡くられた当日、先生との出会いがあって幸せでしたとおっしゃっていただけました。私こそ患者さま、ご家族さまとの出会いがなかったら名古屋で手術を続けられる自信が無かったかもしれず、私にとっては患者さまを元気にする立場から逆に励ましていただき元気にしていただいた立場になっておりました。私たちが関わった心臓血管外科手術は故障した心臓、血管を修復するだけでは成り立たないと思っています。命がけの気持ちで心臓を私たちに託していただいた皆様との素晴らしい出会いでなければならないと思っています。

最新のアメリカの学会雑誌で、心臓手術(弁膜症)をした心臓病の患者さんが、手術をしていない普通の人々より長く生きていたというデータを発表していました。この発表が正しいかどうかはともかく、私もそう感じる時があります。手術をされてますますお元気に長生きできることをお祈りいたします。



▲田澤医師・大橋医師・阪口監督



徳洲会グループの海外病院第1号で
2006年12月に開院した徳洲会ソフィア病院



ブルガリア 心臓手術研修

7月3日から18日までブルガリアのTokuda Hospital Sophia(徳洲会ソフィア病院)で心臓手術の研修をさせていただきました。

毎日4～5例、年間1000例以上の開心術を行っており、医師や看護師をはじめ、臨床工学技士の方々も皆優秀で非常にアクティビティの高い病院でありました。

冠動脈バイパス術、弁膜症手術、左室形成術など、手術内容も様々で、私は午前中は手洗いをし手術に加わり、午後は見学をさせていただきました。海外の心臓手術をこの目で見たのは初めてで、



▲田澤医師

まず年齢層や体格など患者さまの背景が日本で経験したのとは大きく異なり、さらに術中のモニタリング、麻酔、ドレーピング、人工心肺も比較的シンプルかつ清潔で、手術室がさっぱりとしていたのが印象的でした。手術内容に関しても全体的にはほぼ変わらないものの、一つ一つの手技や順序で多少の違いがあり、我々が見習うべき点や改善すべき点など、ところどころに見受けられました。海外に来て初めて、日本で今までやってきたことを客観的に見られるようになり、非常に良い勉強になりました。



また週末を利用して、ソフィアの市内観光や、ギリシャのアテネ観光もさせていただきました。古い教会や古代遺跡はもちろん、普段はなかなか見られない

バルカン半島の人々やその生活習慣などを垣間見ることができました。

ブルガリアでの2週間の滞在は非常に有意義であり、今後も心臓外科を続けていく上で大きな財産となったことを確信しております。



大垣徳洲会病院
医長 田澤 希久子



第8回心臓血管外科術後の会開催の報告 2007年10月6日(土)



◇旅行レポート◇

報告者:MSW 谷合 麻理子

平成19年10月6日、『第8回心臓血管外科術後の会』が行われ、今回は長野県下伊那郡にある昼神温泉へ行きました。参加者は職員を含め231名と、多数の参加があり、当院から3台、中津川駅から2台のバスで出発しました。昨年同様バスの中では、参加者の皆さんと職員が自己紹介をしながら楽しく過ごしました。

ホテルに到着し温泉に入浴した後、宴会場に移動し、最初に患者さまの志賀拓夫さんが代表して乾杯のご挨拶を下され、食事が始まりました。

その後は大橋総長による医療講座が行われ、3名の患者さまから手術の体験

談などのお話もありました。次に、久野史津子管理栄養士による医療講座『心臓病・動脈硬化予防のための食生活のポイント』が行われ、減塩や食事を摂る際の注意点などの話に、皆さん熱心に聞き入っておられました。

最後に、患者さまを代表して牛越 亥久雄さんに閉会の挨拶をしていただき、会は大盛況のうちに幕を下ろしました。皆様のお元気そうな姿や、笑顔でお話されている姿を拝見し、嬉しく思うと共にこれからも職員一同この日のことを励みにし、頑張っていきたいと思っております。



大橋総長の挨拶



志賀 拓夫さんによる乾杯





術後体験記

☆心臓血管外科手術を受けられた患者さまから寄せられた体験記をご紹介します。



81歳・男性

2007年11月27日
不安定狭心症のため
冠動脈バイパス術

テニスの復活を目指す。

あの何とも言えない胸の苦しさ、私にとって生まれて初めての経験でした。平成19年11月26日(月)英会話のレッスン中の出来事でした。あまりの苦しさに耐える事ができず、そっと教室を抜け出し、丁度隣の教室に居た娘に連絡し、日頃お世話になっているH病院に行きました。直ちに高蔵寺の徳洲会総合病院に連絡して頂き紹介状を書いて頂いてお伺い致しました。

病院の患者に対する接し方は親切そのものでした。私の病状をわかり易く説明して頂き私は何ら心配することなく、病院の先生方に全てをお任せすることにしました。

術後の経過も良く、約12日間で無事退院することができました。今は好きなテニスの来春からの復活を目指し静養第一に励んでおります。大変お世話になった大橋先生、亀谷先生、そして徳洲会のシャラポワ田澤先生、景山先生、坂倉先生、そしてナースの皆さん方、本当にお世話になりました。心からお礼を申し上げ筆を擱きます。暇が出来ましたら、テニスコートまで遊びにきてください。ダブルスでもしてplayしましょう！お待ちしております。

中津川市民病院から名古屋徳洲会総合病院を紹介され5月29日入院しました。市民病院からレントゲンのフィルムを貸して下さったので、それを持って行きました。私の元気、体力のある時に胸部大動脈瘤大動脈弁閉鎖不全症の手術をして欲しくて、すぐ入院をお願いし、色々な検査をして6月3日15時40分から手術を始められ19時40分頃終わりました。私たちの子供も来て時間が長くなれば血管の方も手術をすると言われていたので心配して待っていましたが、4時間で終わりましたので胸をなで下ろしました。

手術の経過も良く次の日15時には、集中治療室のベッドに座りテレビを見て、少し水を飲み夕食はご飯が出ますと言われ、びっくりしました。毎日毎日の経過も良く3日目に歩きました。6月16日手術の痕もきれいになり退院する事が出来、本当に良い技術を持った先生ばかりで名古屋徳洲会総合病院でほんとうに良かったです。



術後3日目に歩きました。



67歳・男性

2008年6月3日
大動脈弁閉鎖不全症
のため大動脈弁置換術



高度先進医療を受けて。



80歳・男性

2007年12月3日
大動脈弁狭窄症
のため大動脈弁
弁置換術

1. 手術に至る前の経過

80年の長い間動き続けてきた私の心臓「大動脈弁」も老化硬直し狭窄症になっていた。それが10年くらい前からその兆候があった。心音に雑音があるとよく医師にいられていた。その後5年ほど前に病名がはっきりして手術以外に回復の道がないと言われていた。それでもそのまま時を過ごしてしまった。

今回ある機会を得て精密検査を受けた結果は病状が極度に進行して、既に肺に水が溜まっているといわれた。それを聞いて最早躊躇している時ではないと思い決断した。手術をするに当たって、一抹の不安はあったが担当医師から事前に懇切丁寧な説明があり家族とも理解することができた。

2. 手術後の感想

「高度先進医療」という言葉を聞いたことはあったが、自分がこの治療を受けることは夢々思わなかった。今私の心臓は「金属弁」に置き換えられて動いている。この医療のお陰で生かされているのだと思うと不思議と言うか奇跡のようなものを感じている。病院の機能的な施設、機器を駆使する方々の技術力が一体となり、まさに総合的な力を結集していること、僅かな入院期間であったが皆様の医療に対する献身的な心は生涯忘れることはないと思う。

3. 御礼のこトバ

最後になりましたが、執刀して下さった医師の皆様、医療技師の皆様、看護師の皆様を始め院内の多くの方々のお世話になりましたこと心から感謝し厚く御礼申し上げます。

私は僧帽弁閉鎖不全症の手術を6月6日にしていただきました。初めは岐阜県関市の病院に入院していたのですが、弁をかえるしか方法がないと言われ(この病院では心臓手術はやってない)自分としては手術だけはしたくなかったし弁が悪いと言われましても本人には目にも見えるものでもなく、まして名古屋までは遠いし、徳洲会病院もあまり知っていませんでしたので…。でも家族が色々調べてくれましたら、手術例も多くてとても良い先生がみえる事がわかり決心しました。

もう17日には退院出来て、今は“本当に良かった〜”と喜んでます。手術して下さい下さった先生方、又お世話をして下さった看護師さん本当にありがとうございました。



手術をして良かった。



63歳・女性

2008年6月6日
僧帽弁閉鎖不全症
のため僧帽弁置換術

☆皆様からいただいた質問を紹介します。参考にしてみてください。

(回答者:大橋 壯樹)

Q1

術後1年以上経過しました。
定期健診はどれ位で良いでしょうか？

A1

術後の症状が安定している方は、基本的にはお近くのクリニック、開業医で再発防止のための高血圧、糖尿病、高脂血症、不整脈などの定期診察、処方をお勧めします。合併症もなく投薬の必要のない患者様は定期的な診察は不要です。

●**冠動脈バイパス術**:循環器等の専門の定期健診は1年ごとでいいと思います。必ずしも冠動脈造影検査、冠動脈CT検査は必要ないと思います。症状があれば(労作時の胸部圧迫感、胸痛)診察をしていただき必要であれば再検査をお勧めします。

●**心臓弁膜症手術**:機械弁でワーファリンが必要な場合は2ヵ月ごと(ワーファリン量が安定している場合は4ヵ月ごと)に採血でワーファリン量が適切かどうか調べる必要があります。生体弁では必ずしも必要ありません。循環器、心臓外科専門医には年に1回の心臓超音波検査をお勧めします。

●**大動脈瘤手術**:1年ごとのCT検査をお勧めします。動脈瘤手術の人工血管は一生持ちますが、人工血管とご本人の血管との接合部や他の血管の状態をチェックすることをお勧めします。

Q2

平成18年9月に手術 左足静脈を移植。
左足切傷や足首部分がよく痛みますが、
痛みはどれ位まで続きますか？

A2

冠動脈バイパス手術を足の静脈でさせていただいた患者さまからはこのような訴えをよく聞きます。足の静脈は表面にある大伏在静脈だいふくざいじょうみゃくを採取します。表面ですから奥の血管や神経を傷つけることはありませんが、表面のひきつれや傷口の痛みを訴える方がいらっしゃいます。痛みは個人差があってもまったく痛まない方からいつまでも痛む方、ひりひりするかたがいらっしゃいます。また、心不全で足がむくんだり、閉塞性動脈硬化症を合併して傷口の痛みが増強する方もいらっしゃいます。

正直申し上げてこれといった治療法がありません。足の運動、ストレッチ、温浴が多少効果があります。

最近では、内視鏡で静脈を採取しており、昔は何10cmもの足の傷でしたが、今では2cmほどになりこのような訴えは減ってきております。

Q3

再発についてお尋ねしたいです。

A3

●**冠動脈バイパス術**:個人差がありますが、10年間で10%から20%が詰まるといわれています(内胸動脈は10%、足の静脈は30%)。また、他の場所が詰まることもあります。詰まったバイパスの数、場所によりかならずしも再手術になるわけではなくカテーテルで治療可能な場合があります。

再発時の症状は労作時に胸の圧迫感や痛みがあるなどです。あるいは息切れや呼吸困難の症状がでる場合もあります。

●**心臓弁膜症手術**:生体弁で15年後に20%が劣化するといわれていますが、最新の報告ではさらによくなっているといわれています。また、高齢者では劣化しにくいといわれています。機械弁では劣化はしませんがまれに血の塊がついて弁の開閉を妨害することがあります。

再発時の症状は突然息苦しくなったり、全身がむくんできたりした場合です。

●**大動脈瘤手術**:人工血管は劣化することはまずありませんが、他の場所の大動脈が瘤になったり、まれですが人工血管の吻合部が弱くなって瘤になることもあります。1年に1回はCTでの経過観察をお勧めします。再発時の症状は胸の痛み、背部の痛みがでる場合です。

いずれにせよ、無症状のまま再発することもありますので、かかりつけの先生に相談することをお勧めします。

Q4

平成12年4月に弁置換手術を受けました。
先日左顔面がマヒしたため、検査を受ける
ときMRIはいいか聞かれました。
MRIはOKですか？

A4

昔の人工弁ではMRIが不可能な場合がありますが、当院で行った人工弁はすべてMRIは可能です。